

vol.82

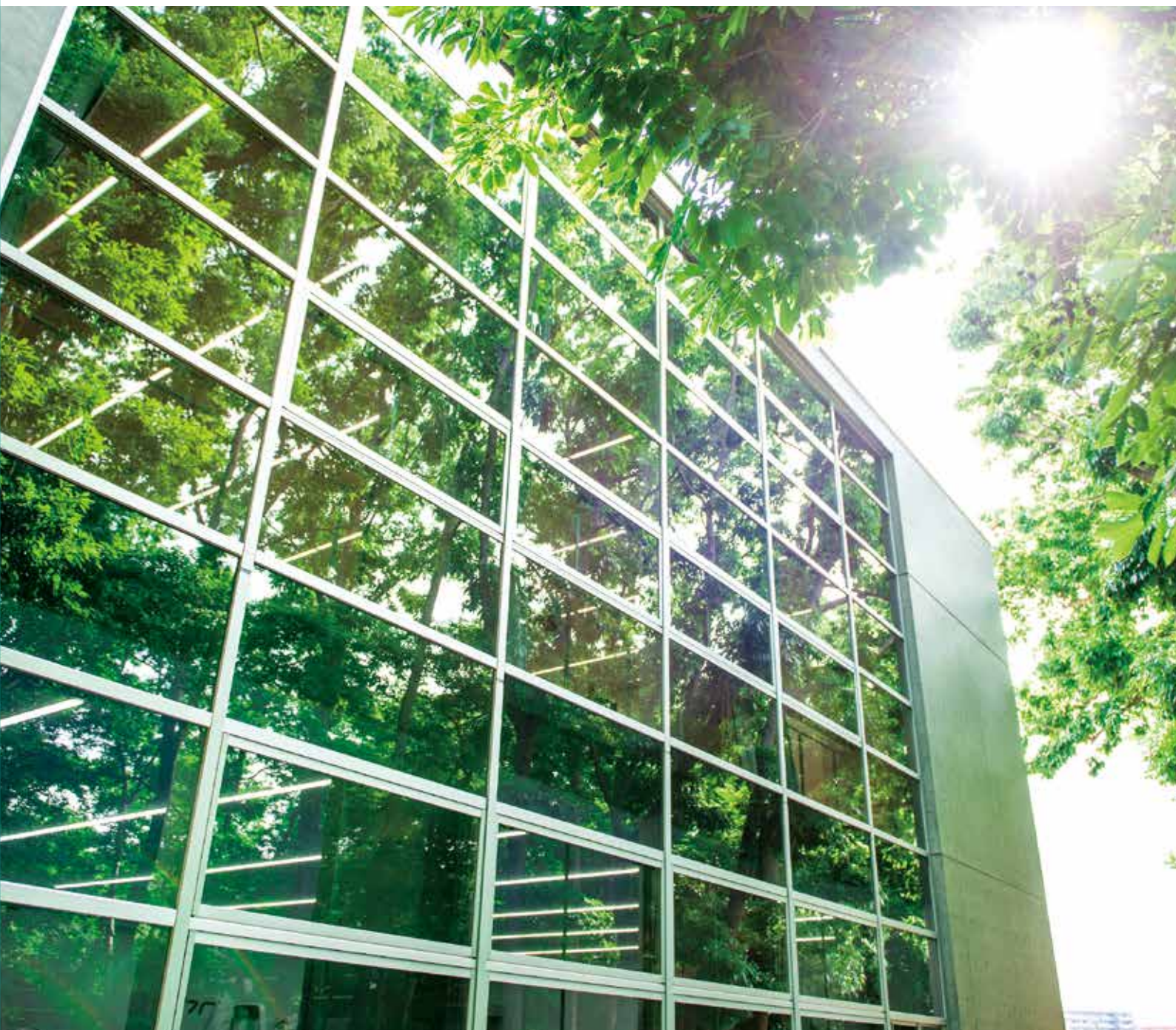
July 2017

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トポス]

TOPOS

[特 集]

新体育館と防災についての取り組み





常磐大学・常磐短期大学体育館、竣工

学生生活を支える、森の体育館

40年以上にわたり使用してきた、常磐学園創立50周年記念体育館。その老朽化と耐震診断の結果を受け、この度、新体育館を建設いたしました。木漏れ日が爽やかな小道の奥に所在する常磐大学・常磐短期大学体育館。ガラス張りの外観に木々の緑が映り、自然豊かな見和キャンパスを象徴する景観を作り出しています。敷地面積は、約3,000㎡。競技フロアには、バレーボールコート2面、バスケットボールコート2面、バドミントンコート6面を設置することが可能です。入学式などの式典のほか、文化祭や保護者会、研修会などこれまでよりも幅広い利用が見込まれています。もちろん、学生の学びの場としても充実の施設。体育の授業で、部活動やサークル活動の練習場として、より良い学生生活を設備面から支えています。

多くの設備、フレキシブルな体育館に期待

館内の大きな特徴は、ステージ両脇に設けられた200インチスクリーン。また、フロアを区切るディバイダーにも映像等を投影することができます。通常時は広く使えるよう、観覧席とステージは可動式に。用途や収容人数に応じた使い分けが可能です。そのほか、更衣室・シャワー室とトレーニング室、多目的室を併設。トレーニング室は体育の授業のほか部活動の練習に、さらに健康栄養学科の実習にも利用されます。多目的室には、壁一面に鏡とバレエバーを設置。授業中にはリトミクの学びの場として、放課後にはダンスレッスンの場として開放されています。アイデア次第で自由に活用できる環境が学生を成長させる、そのシンボルになってくれることでしょう。



常磐に新たな価値を、 新体育館の歴史が今、はじまる

2016年8月に着工した新体育館。見和キャンパス開設50年施設整備事業募金へ多数のご協力をいただき、2017年3月30日に竣工を迎えました。4月3日に入学式が行われたほか、授業や部活動にも活用しはじめています。学生にはもちろん、いざという時には住民の皆さまにも開かれたランドマークとして、地域への貢献にも期待が高まります。

■ 電動昇降ステージ



■ 観覧席(可動椅子)



■ 中央可動式ディバイダー



■ トレーニング室



■ 多目的室



■ 更衣室



■ 競技フロア



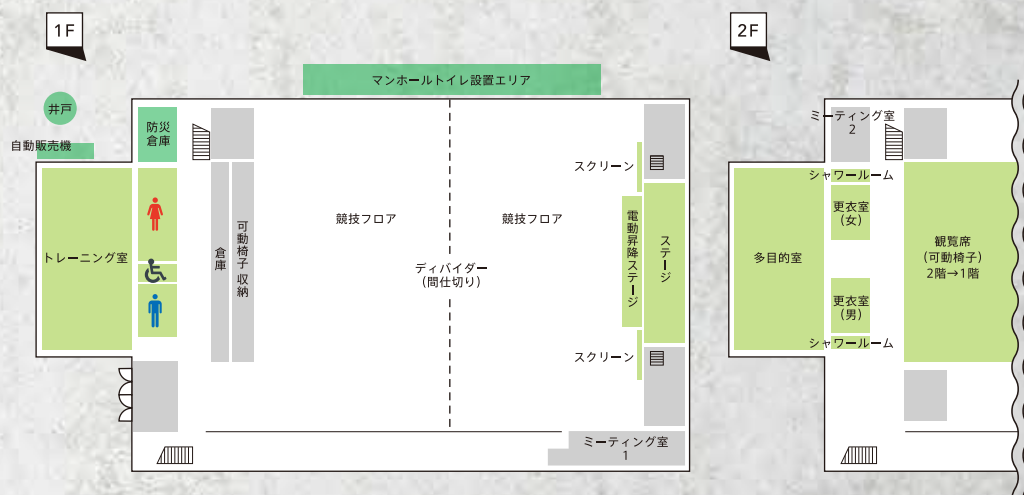
■ エントランス



Campus Map



Floor Map



新しい体育館の 防災面における役割

水戸市より、広域避難場所・緊急避難場所の指定を受けている本学。体育館の新設にあたり、学生の利用だけでなく、この体育館の存在が、近隣の方々の安心感につながることも目指しました。東日本大震災での体験を元に、防災拠点として役割を果たすための設備を館内外に備えています。



マンホールトイレ

体育館脇の駐輪場に10個並ぶマンホール。
テント設置でトイレ利用が可能に。



防災倉庫

食料と飲料、毛布やラジオライト、ヘルメットなどの物資を保管可能。



井戸

入り口付近のポンプ式井戸。
災害時には、地下約30mから
水を汲み上げる。

自動販売機

学生が利用する自動販売機。
災害時には、在庫の飲料が無
料で提供される。



防災拠点施設としての役割を担う

新体育館は、東日本大震災を教訓に、「マグニチュード8以上の地震にも耐えうる」という新耐震基準を満たしています。体育館東側には防災倉庫、井戸、自動販売機を設置、その並びにはマンホールトイレ設置エリアが続きます。防災倉庫には、今まで各所で保管されていた防災関連品のうち、避難者対応品を1か所に集約。災害時の対応が迅速かつ適格に実施できるよう、毛布のほか学生の約1割にあたる300人分×3食×3日間＝2,700の食料と飲料を備蓄しています。井戸を新設したのは、東日本大震災では、水道の復旧が遅れたという経緯があったことから。

暮らしになくなくてはならない生活水の確保を優先しました。

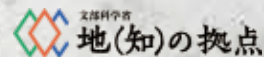
5月30日には水戸市と災害時の連携に関する覚書を取り交わし、大規模災害時には体育館を緊急避難場所に、またグラウンドは一時的に広域避難場所となりました。また、本学の教育や研究を通して専門的な見地から、防災、災害時の応急活動、災害被害者支援等について水戸市に協力していきます。今後さらに災害対応における社会貢献に取り組んでいきます。



防災に対するもう一つの取り組み

ー TOKIWA COC プラス PROJECTー

本学の防災への取り組みの一つに、平成27年度から文部科学省で実施されている「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」があります。茨城大学を代表校とする「茨城と向き合い茨城に根差し、未来を育む地域協創人材事業」の一環として、本学では「地域の安全・安心を通じて地方創生」を目指した取り組みを進めています。地方公共団体や企業等と協働し、地域が求める人材に必要なカリキュラムや事業などを整備し、地方創生の中心となる「ひと＝学生」を育て、その人材が地方で活躍することを目指します。



■ 第1回「災害とところ」講演会

2017年1月、中島聡美先生(福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター特命准教授)をお招きした第1回講演会。「災害による喪失と悲嘆へのケア」と題し、中島先生の専門分野である災害精神医学・被害者学・PTSD・複雑性悲嘆など、トラウマ関連障害の治療や病態に関する研究をベースに、わかりやすくお話いただきました。大切な人を失った時の心理や、悲嘆からの回復にどのようなケアが必要なのかというお話は、地域の安全・安心を通じて地方創生を考える上でも貴重な機会となりました。



■ ときわbosaiサポーターの発足

学内の防災活動に関する事業に、大学生サポーターが活躍中。事業ごとに参加者を募り、災害食レシピコンテストや講演会などの運営サポートを行っています。登録者は2017年度現在13名。今後は運営のほか企画にも参加するなど、学生のより主体的な防災への取り組みを進めてまいります。ときわbosaiサポーターに興味のある人は、地域連携センターへお問い合わせください。

■ ときわ災害食レシピコンテスト

2016年10月から2カ月半にわたり、茨城県内の高校生による「災害食レシピ」を募集。審査の結果149作品中7点を「ときわ災害食レシピ」として認定しました。審査のポイントは5点。

- (1) 電気・水道・ガスの供給停止下で調理ができること
- (2) 洗い物が少量化されていること
- (3) 誰でも調理可能であること
- (4) 被災者の目線に沿ったレシピであること
- (5) 高校生らしい斬新なアイデアがあること

審査の結果、カンパンのパスツキをツナやマヨネーズの油分で軽減させ、ポリ袋で材料を混ぜてそのまま器として提供できる、久保田成美さんの作品「カンパンシェイクサラダ」が見事、最優秀賞に選ばれました。



賞	レシピ	氏名	所属
最優秀賞	カンパンシェイクサラダ	久保田 成美	水戸桜ノ牧高等学校
優秀賞	ティラミスもどき	小田 桃華・石田 莉加・尾形 みなみ・大槻 歩美 (グループ名: PURIN)	石岡商業高等学校
	災害に負けるな!! カモっちビザ	坂本 早奈栄	水戸第二高等学校
	もちカレー	萩野谷 莉奈・兼松 瑞奈 (グループ名: WR)	智学館中等教育学校
審査員特別賞	高野豆腐のチキンビザ風	菅澤 佑美	鉾田第二高等学校
	さんまのあまからにぎりめし	豊田 理紗	那珂湊高等学校
	秋刀魚のだし巻き	木村 円香・黒澤 和・黒澤 春香	那珂湊高等学校

これからの取り組みをご紹介します

茨城県内の自治体における 防災文化力に関する調査研究

茨城県内の市町村を対象にアンケート調査およびインタビュー調査を行います。茨城の「防災文化力」(防災・減災に関する「地域の記憶の伝承」、「リスクコミュニケーション能力」、「想像力・創造力」)を明らかにします。



ときわbosaiワークショップ 「災害食づくりワークショップ」

ときわ災害食レシピコンテスト2016の経験を活かし、ときわbosaiサポーターを中心に、災害食づくりワークショップを実施します。自治体、自主防災団体、高校などと連携し、レシピ集の作成などを通じて、地域に貢献することが目標です。



ときわbosaiワークショップ 「防災マップづくりワークショップ」

ときわbosaiサポーターを中心に、自治体、自主防災団体などと連携し、防災マップづくりワークショップを実施します。防災マップづくりを通じて地域の方々との交流を行い、より主体的な防災の在り方について考えます。



プロジェクト科目C 「防災/防災教育について学ぶプロジェクト」

茨城県の「防災事業」「原子力災害対応」「地域防災」「学校防災・防災教育」について、フィールドスタディ・講義・グループワークを通じて学ぶ機会を設けます。2017年度秋 semester、金曜日4限に開講予定です。





2017年度入学式

新体育館で総合政策学部の新入生を歓迎

4月3日、新体育館で、常磐大学、常磐短期大学の入学式を挙行し、大学生592名、短期大学生227名が入学しました。2017年度より新設された総合政策学部191名の新入学生を迎え、富田信穂学長は式辞において「新しい体育館で新入生を迎えられることを大変うれしく思う」「本学の『実学』重視の教育のもと、情報収集力・課題発見力・課題解決力・語学力・コミュニケーション力・プレゼンテーション能力を身につけ、社会に貢献できる人材となるよう期待している」と新入生を歓迎しました。

News and Topics

学び、体験し、日々成長している学生・生徒・園児たち。

そんな彼らの活躍の場は、校内にとどまらず

さらなる広がりを見せています。

ここでは各学校の主な活動や取り組み、実績などをご紹介します。



官民協働海外留学支援制度 「トビタテ!留学JAPAN ～日本代表プログラム～」の 『多様性人材コース』に採用!



人間科学部
健康栄養学科1年
沼田美由紀さん

官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN～日本代表プログラム～」第6期生に、常磐大学人間科学部現代社会学科2年の中村帆奈南さんと健康栄養学科1年の沼田美由紀さんの2名が『多様性人材コース』に見事採用されました。中村帆奈南さんの留学計画のテーマは『異文化を背景に持つ生徒にも夢とワクワクを!～「NZに学ぶ多文化共生教育実践ガイドTOBITATE! HONAMI版」の制作』。ニュージーランド・ウェリントン市「Clyde Quay School」に留学し、「Celebration of Diversity」をモットーに、学校でのボランティア活動を通じて「多文化共生教育」の最先端を体験します。卒業後は、中学の社会科教師になり、学校、保護者、地域とともに外国籍生徒のサポートを実施できる多文化共生教育のリーダーを目指します。また

沼田 美由紀さんの留学計画のテーマは『ツナガレ!「食」からはじまる茨城やネグロスの輪～栄養教育が結ぶ食文化交流と栄養改善の推進～』。フィリピン西ネグロス州・バゴ市立大学に留学し、現地教育学部の学生の協力を得ながら現地小学校の児童や保護者を対象として「栄養教育ワークショップ」を行います。将来は栄養教諭として「食」を通じて茨城とフィリピンをつなぐ人材となることを目指します。留学期間はともに2017年8月から約1カ月半です。



人間科学部現代社会学科2年
中村帆奈南さん



経営学科「ビジネス専門実習」で 京成百貨店の販売促進イベントを開催

国際学部経営学科の3年生たちが、1月7日、8日に水戸京成百貨店で産学連携の商品販売促進イベントを開催しました。経営学科「ビジネス専門実習」の授業の一環として実施される当イベントの目的は、企業の利益構造(ビジネスモデル)に対する理解を深め、分析力・判断力・企画力・創造力を養うこと。さらに企業利益を考慮し売り上げに貢献することも課題の一つとなっています。「京成GO!」で実際にモンスターに扮した経営学科3年の川崎桃子さんは、「京成百貨店の中でお客様にあまり知られていないお勧めのポイントを調べ、手作りマップをつくるなど、お客様とのコミュニケーションをたくさん取る工夫をしました」と話しました。また、「ご当地キャラ〇×クイズ」を担当した経営学科3年の本田弘樹さんは、「イベントをやればターゲットの商品がすぐに売れる、イベントも注目されると予想していましたが、そんなに簡単ではないことがわかりました。チラシの渡し方や、お客様への声掛けなど、接客対応の工夫が求められることを学んでいます」と話しました。





和泉さんの「ネバネバ納豆餃子」、
千葉さんの「ふわトロはんぺん団子」



健康栄養学科の学生2人が 「ヘルシーメニューコンクール」で 各賞を受賞しました

人間科学部健康栄養学科3年の和泉美穂さん、千葉彩加さんの2名が、公益社団法人茨城県栄養士会が主催する「ヘルシーメニューコンクール」において各賞を受賞。「平成28年度いばらき食育推進大会」で表彰されました。「ネバネバ納豆餃子」で主菜部門・優秀賞に輝いた和泉さんは、昨年の副菜部門・最優秀賞に続き2年連続での受賞。「昨年に続き受賞できてよかった。主菜は副菜に比べて濃いめの味付けでないと美味しく感じないので野菜量70グラム以上で食塩は1.2グラム以下という基準値をクリアすることが大変だった」と語ってくれました。また、「ふわトロはんぺん団子」で副菜部門・最優秀賞を受賞した千葉さんは「初めてのヘルシーメニューコンクールへの応募だったが、受賞できてうれしい」と感想を寄せてくれました。



第3回Walking Dayを開催 全生徒が23kmを無事踏破

3月4日、涸沼駅から学校までのおよそ23kmを踏破する「第3回Walking Day」を開催しました。天気にも恵まれ、雄大な涸沼の自然の中を、1年次から5年次までの生徒が混在するグループ編成で楽しく歩く中で、学年を超えた交流をはかりました。強い連帯感とともに、リーダーシップとフォローシップの両面を育みながら、一人の脱落者も出すことなく全生徒が無事帰着することができました。大きな達成感とともに年次を超えた絆は一層強いものとなりました。



目的は「Have the courage to challenge everything!!」 成長できたオーストラリアでの研修

2016年度新設の特進選抜コース1年生が参加した初めてのオーストラリア海外研修が3月21日から4月1日まで行われました。研修では、生徒一人ひとりが自ら理解し、主体的に行動しなければ達成できない高度なプログラムも含まれていました。午前中の4時間は、マコーリー大学の特別英語クラスで、主にリスニングや発音など実用的な英語を、午後はメディア社会学の講義を現地の大学生と一緒に聴講したり、気候変動と環境保全についての特別なプログラムも受講できました。ホストファミリー宅での暮らしも、生徒にとって忘れがたい経験に。各々が成長できた2週間の研修でした。



年長組で「空手エクササイズ」を開催！ 心身ともに鍛えられました

5月11日、年長組で「空手エクササイズ」を実施しました。指導は智学館中等教育学校の山崎由紀子先生と暁道場の師範飛田暁先生です。背筋の伸びた姿勢で、踵と踵を合わせた「結び立ち」の礼から始まり、準備運動をして、礼の仕方・構え方・蹴り方と基本になる動きを丁寧に、楽しく指導していただきました。また、型にも挑戦し、みんなキビキビとした動きで「おっす!」「えいっ!」の大きな声で気合も十分。子どもたちの動作やキリッとした表情に、飛田先生が大きな声で褒めてくださり、みんな満足そうでした。次回エクササイズに期待がふくらみます。





道の駅ひたちおおたの 「県北冬の物産展」で県内学生と協力

1月14日、15日に常陸太田市の「道の駅ひたちおおた」で開催された「県北・冬の物産展」に、本学の学生7名が協力しました。今回の物産展は、本学が加盟している「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」と、道の駅ひたちおおたとの連携活動の一環として、コンソーシアムに加盟する本学、茨城大、茨城女子短大、茨城工業高専の学生が企画立案。本学国際学部経営学科3年の君島唯人さんは「他の大学の学生や先生方とともに一つのイベントを成し遂げたことは、貴重な経験になった。何より自分が選んだ商品がお客様に喜んでいただけたことは励みになった」と話しました。コンソーシアムでは、今後も「道の駅ひたちおおた」と、さまざまな連携活動を行っていきます。



NHKラジオ「キャンパスライブ@茨城SP」に 出演。茨城県の魅力を学生の目線で発信

NHKラジオ第1で1月9日に全国に公開生放送された「キャンパスライブ@茨城 SP」に、常磐短期大学キャリア教養学科1年の遠藤瞳さんと常磐大学コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科1年の鈴木志織さんが出演し、茨城県の知られざる魅力をアピールしました。この番組は、株式会社ブランド総合研究所が毎年発表する地域ブランド調査で、4年連続最下位となった茨城県を盛り上げることを目的とした地域活性化バラエティ。遠藤さんと鈴木さんが企画・担当したコーナーは「茨城だって日本一だもんクイズ」。ゲスト出演したアイドルグループ「乃木坂46」のメンバーに、竜神大吊り橋やアクアワールド大洗水族館などにまつわるクイズを出題し、会場を沸かせていました。



448名の新たな常磐大高生が 大きな希望を胸に入学式に臨む

4月7日、2017年度入学式が挙行されました。緊張しながらも真新しい制服に身を包んだ新入生448名の大きな返事が、新体育館に響きわたりました。学校長式辞をはじめ、合唱同好会の校歌演奏など熱い歓迎を受けた新入生。ここから常磐大高生としての第一歩を踏み出しました。



「夜・梅・祭」で「夜梅おみくじ」を販売

3月11日に水戸・偕楽園で開催された「夜・梅・祭 2017」に、TSSボランティアTRICOLORに所属する学生たちが参加し「夜梅おみくじ」の販売を行いました。学生たちがこのイベントに参加するのは今年で6回目。企画・制作から販売まで、すべて学生たち自身で行うもので、今年は鳥の形に折ったおみくじに、梅結びにした水引や、吊るし雛の梅飾りにヒントを得たストラップを付けて販売。一つ一つを手作りで仕上げ、2カ月かけて約800個のおみくじを完成させました。当日は学生たちのアイデアが詰まった可愛いおみくじが大好評で、販売開始直後から売場には長蛇の列。昨年に引き続き3時間ほどでおみくじは完売しました。企画に携わった人間科学部コミュニケーション学科3年の森美優さんは、「水引や梅飾りの作成は技術的にも難しく、根気のいる作業でした。でも、その大変さを乗り越えることでメンバーの一体感が生まれ、完売した時に大きな達成感を得られたのだと思います。自分たちのおみくじがお客様を笑顔にする、とても素敵な経験でした」とコメント。努力が結果として表れる喜びを実感した学生たちは、次はさらにグレードアップしたおみくじを作りたいと、早くも来年を見据えていました。



沖縄への修学旅行。現地で知り、 感じることの大切さを学ぶ

3月7日から11日まで、2年生全員が参加した修学旅行先は「沖縄」。宝石のように青く輝く海と豊かな自然はもちろん、琉球王朝時代から育まれてきた風土、伝統、独特の文化に触れ、各々が深い感動を覚えました。また、平和の礎やひめゆりの塔などを目の当たりにし、住民を巻き込んだ地上戦の悲惨さ、そして米軍基地問題など「沖縄の悲しみ」にも触れてきました。修学旅行の最大の魅力は、日常顔を合わせている仲間と非日常の環境で過ごし、感動や喜びを共有することです。この4日間で、より深まった友情と新しい発見をさまざまな感動とともに実感したことで、高校生活で最高の思い出の一つとなりました。



新入生対象の部活動紹介を開催。 伝統的な部活動から斬新でユニークな 同好会までが日頃の活動を発表

新入生を対象とした部活動紹介が、4月12日に第一体育館で行われました。限られた時間の中で、部活動の良さ、特色、雰囲気等新入生に伝えるために、各部・同好会が一生懸命企画を考え、笑いあり、サプライズあり、見ごたえのある素晴らしいものを披露しました。部活動では教室の授業だけでは学べない多くのことを学び、身につけることができます。新入生には、是非とも部活動に参加して、多くの経験を積んでほしいと思います。



水戸トラックレース大会に参加 自らの限界に挑戦！

ケーズデンキスタジアム水戸トラックレース大会が2月12日に行われ、智学館からも運動部所属の生徒をはじめ、多くのアスリートが、日頃のトレーニングの成果を発揮すべく記録に挑みました。同年代の他校生と競い合い、自分の限界を突破しようと努力することは貴重な体験になり、参加者それぞれの今後の活動の大きな励みになりました。



前期課程生を対象に書き初め大会と カルタ大会を行いました

1月14日の書き初め大会では1年次は「不言実行」、2年次は「自然の神秘」、そして3年次は「無限の可能性」という課題に挑戦。一年間の抱負や目標を胸に、真剣な面持ちで筆を入れていました。1月20日の百人一首カルタ大会では、応援の保護者や担任らが見守る中、6年次生の読み手が札を読む声に合わせて、会場のあちこちから「はい！」という元気な声が聞かれました。喜びや驚き、仲間への賞賛や悔しさなどさまざまな表情が見られ、前期課程生がこの大会にける熱い思いが会場全体に伝わっていました。



親子で楽しんだ「年少親子遠足」。 マナーもしっかり学ぶことができました

4月25日、年少組親子遠足でアクアワールド茨城県大洗水族館に行ってきました。イルカやアシカショーのダイナミックなパフォーマンスを見て驚いたり、珍しい色や形の魚に目を輝かせたり。実際に小さな魚に触る体験ができるコーナーも大人気。キッズランドではたくさん体を動かし、お友達とも触れ合える時間を持つことができました。入園して日も浅い中、親子で公共のマナーも学び、保護者同士の親睦も深めることができた楽しい遠足になりました。



技術家庭でロボットを作る。 熱心に取り組んでこそ味わえる喜びが得られました

「技術家庭」の授業では、ロボットに関する内容を学んでいます。2年次では、「ビュートレーサー」を使って基本的なロボットプログラミングを学び、実際に作製します。このプログラミングではロボットを決められたパターンに従って動かし、黒い線に沿って動かし、動かしたりするので、今後さまざまなロボット作製へ応用できます。また、3年次ではラジオ作製をしたり、ロボット科学部ではより複雑な動きをプログラミングするなど、学校全体でロボット作製の活動を積極的に行われており、生徒からも人気の高い活動となっています。



年少・年中組主催の「おわかれ会」を開催。 感謝の気持ちを込めて「巣立ち」をお祝いしました

いつも優しくお世話をしてくれ、楽しく遊んでくれた年長組のお兄さん、お姉さんに「ありがとう」の気持ちを込めて、年少・年中組主催の「おわかれ会」を3月1日に開きました。初めはお互いに恥ずかしそうにしていた子どもたちも、グループに分かれてさまざまなゲームやコミュニケーション遊びをしていくうちに、どんどん明るく柔らかな表情に変わっていき、とても楽しい時間となりました。最後は、皆で心を込めてつくった鉛筆立てのプレゼントを贈り、年長さんと力強い歌と歌の交換をして、和やかな雰囲気の中、終えることができました。一人一人がしっかりと1年生に成長できることを期待しています。



作物を育てる喜びを感じて 土に触れ合う貴重な体験

4月18日、短大の村上先生、ゼミの学生たちと一緒に「まつこの広場」で畑の耕し作業を行いました。砂場用の大・小のシャベルを使って、冬の間踏み固まって硬くなってしまった土をみんなでできるだけ柔らかく耕し、5畝ほどの苗床ができあがりました。今年はたくさん収穫できるミニトマトやインゲン豆、ゴーヤ、ピーマンなどを中心に苗植えをする予定。さつまいもも一人一苗植え、夏や秋の収穫を目指します。「どんな色のお花かな?」「葉っぱがハートの形だよ!」など、実がつくまでの過程で、いろいろな学びがありそうです。





Eye on Faculty

研究を進める先生に注目！

常磐大学に在籍する多くの教員。
講義担当としてはもちろん、さまざまな専門分野の研究にも携わっています。
そんな学内外で指導、研究を続けている教員の魅力に迫ります。

統計科学の見地から地震予測に迫る。

学内外で地震学に統計的手法を取り入れたデータ解析、地震活動を研究している岩田 貴樹 准教授。常磐大学の全学生が1年次に履修する必修授業を担当しています。「統計は好き嫌いが分かれますが、多くの学生に分かりやすく伝えたい」と授業に臨んでいます。現在は物理的に観測不能な地中の状態推定や、地震シミュレーションや予測について、さまざまな角度からデータ解析などに注力している岩田 准教授に、現在の取り組みや伝えたいことなどをお聞きしました。



Profile

岩田 貴樹 准教授

Takaki Iwata

人間科学部 准教授
専門：統計科学、地震学

京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。
所属学会は日本統計学会、日本地震学会、米国地球物理学連合。

Eye on Books

大学・短期大学の教員が執筆したさまざまな分野の著書をご紹介します。



社会教育の公共性論
—社会教育の制度設計と評価を考える—
人間科学部 准教授 伊藤 真木子

鈴木 眞理・稲葉 隆・藤原 文雄 編著
2016年12月 学文社

社会教育・社会教育行政の構成・論理・原理を考える本で、「講座 転形期の社会教育」シリーズ第5巻です。「社会教育における指導者・支援者の意味」について、執筆しました。



情報サービス演習
—地域社会と人びとを支援する公共サービスの実践—
人間科学部 助教 田嶋 知宏
キャリア教養学科 准教授 名城 邦孝

中山愛理 編著 2017年1月 ミネルヴァ書房

図書館で行われる情報サービスの実践方法を学ぶための本です。田嶋は、人物、企業、団体情報の特徴と探し方や発信型情報サービスの実施方法についての章を担当しました。名城は、雑誌や新聞の特徴と探し方についての章を担当しました。

Q1 地震学との出会いを教えてください

A 出会いを受け入れ、進んだ先に
机上にはない実際のデータを扱う
面白さを見つけました

通っていた大学の理学部では、学年が上がっていく途中で好きな分野を選択していく流れでした。選べるのは数学、物理学、化学、生物学、地球物理学…という。その中でも物理学が一番人気で、今は人気の生物学がまだマイナーだった頃です。3回生の時に半年間の物理学の実験のコースを取りましたが、時間に余裕があったことで、地球物理学の実習のコースも軽い気持ちで受講しました。結果、物理学で扱う問題は、スケールが非常に大きかったり逆に小さすぎたりして、自分にとって身近なものではないように思いました。地球物理学の実習で、屋外に出て取ったデータを解析した時に、こちらの方が面白と感じたのです。そんな興味を持ち始めた3回生の冬休みの時に、地震学の先生からデータ読み取りのアルバイトに誘われて、その先生の研究室に出入りしたことも大きかったですね。

Q3 実際、地震はどの程度予測できるのでしょうか？

A データも地震が起こる物理の理解も、
予測を行うには不十分なのが、
残念ながら現状です

現状では、地震の予測は難しいと言えるでしょう。例えば天気予報の場合、まず物理の法則に基づいて、今日がこうなので明日の気圧配置はこうなる…という天気図を作ります。しかし、明日雨が降るかどうかを予測するにはそれだけでは不十分で、作成した天気図と、過去似た天気図の時、雨が降ったかどうかから、予測を行います。ですから天気図を作るところまでは物理学ですが、そこから先は統計学の要素が入ります。さらに気象の場合は、天気図を作るのに必要な気象データを地上で観測し、さらに気球や衛星も使ってより詳細なデータを得ることができます。一方、地下数kmを掘削すること自体が困難で、地震予測に必要なデータがほとんどありません。また、たとえデータがあっても、そこから将来を予測する物理の法則についても、完全に分かっていないのが現状です。

Q2 統計科学による地震予測研究に進んだきっかけは？

A 過去のデータをさらに積み重ねて
新しい考え方を学べたのは
統計学の先生からでした

ある時、自分の大学に、統計学の先生が集中講義で来られました。その集中講義のテーマは少し特殊なもので“点過程”と呼ばれるものでした。これは、例えば夜空に散らばる星を「点」に見立て、夜空という二次元平面上に点がどのように分布しているか、そのパターンを捉えるための統計的な方法です。地震に置き換えると、震源を「点」として、その起こった時刻や緯度・経度で作られる三次元空間、さらには深さも含めた四次元空間で、地震の起こるパターンを考えます。そこから将来の地震が、いつどこで起こるかを予測することになります。博士課程を終えた後、集中講義に来られた先生のいる研究所で研究をする機会を得て、このような研究を進めるようになりました。

Q4 これから期待すること

A 未踏な分野だからこそ自由な工夫や、
面白いと感じた感性を
いつまでも大切に

ここ10年で地震に関する研究は進み、計算機によるシミュレーションや統計を使ったデータ解析が活発にはなっています。また、高感度地震観測網(Hi-net)などの整備で、地表で観測できるデータは飛躍的に増えました。しかし、地震学、特に地震予測に関わる分野は、まだ確立されていない部分が多くあります。これは、見方を変えると、いろいろな考え方や調べ方を自由に工夫できる余地が残されているとも言えます。世の中には、最初から目的を持ってその分野に進む人もいれば、なりゆきで進む人もいます。それはどちらも間違いではなく、自分自身が面白く感じて深掘りできるものを見つけることが、これからの進む道を選ぶ一つの方法になるかもしれません。



中国の公共性と国家権力

—その歴史と現在—

総合政策学部 准教授 中岡 まり

小嶋華津子・島田美和 編著

2017年3月 慶應義塾大学出版会

公共空間は、しばしば国家と社会がその領域をめぐり争ってきたものです。本書では、中国における公共空間の在り方を歴史的に紐解いた上で、現在の中国での公共性の展開の可能性を探っています。



音楽と病

—病歴にみる大作作曲家の姿—

キャリア教養学科 教授 菅野 弘久

ジョン・オシエー 著 菅野弘久 訳

2017年1月 法政大学出版局

西洋音楽史を華やかに飾る大作作曲家たちを襲った〈病〉とその〈音楽〉との関わりを、同時代の証言や多くのエピソード、最新の研究成果をふまえて明らかにします。

Campus Schedule

常磐大学&水戸ホーリーホック
コラボデー2017

8/16(水)

大学・短大

オープンキャンパス

7/23(日)・8/5(土)・9/30(土)

ときわ祭

10/28(土)・10/29(日)

TOKIWA高校生英語

プレゼンテーションコンテスト

10/28(土)

高校

オープンスクール

7/25(火)・7/26(水)・7/27(木)・7/28(金)

体験入部

8/23(水)・8/25(金)

クラスマッチ

9/7(木)・9/8(金)

智学館

オープンスクール②

8/20(日)

智学館フェスティバル

9/9(土)・9/10(日)

入試説明会

9/16(土)・10/1(日)・10/22(日)

幼稚園

入園説明会・みんなで遊ぼう

7/13(木)・9/22(金)・10/13(金)

運動会

10/7(土) 雨天時 10/8(日)

諸澤幸雄奨学金 奨学生決定のお知らせ

2017年3月に開催した
諸澤幸雄奨学金奨学生
決定通知書授与式
について、以下のとおり
ご報告いたします。



高等学校	Ⅱ種奨学生	2名
中等教育学校	I種奨学生	1名
	Ⅱ種奨学生	1名

寄付者ご芳名 (敬称略)

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。
[2017年1月~4月受け付け分]

諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

団体

500,000円	常磐大学2016年度卒業生一同
250,000円	常磐短期大学2016年度卒業生一同
10,000円	短歌の会かりん水戸支部*

個人

4,000円	坂井 知志*
	江原 麻子*
芳名のみ公表	齋藤 祐輔*
	田邊 正*

累計金額 97,536,208円

見和キャンパス開設50年施設整備事業募金

法人

100,000円	(株)伊藤園
20,000円	(株)廣済堂*
芳名のみ公表	(株)ヌマタ商事

個人

500,000円	匿名
40,000円	小柳 武*
40,000円	富田 恭平*
20,000円	中村 和彦*

芳名のみ公表	内田 和毅*
	関 いづみ*
	根本 知計*
	久松 雄大*
	横山 正和*

累計金額 7,730,760円

持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動資金

1,000,000円	(2017年度事業分)(株)常陽銀行*
------------	---------------------

硬式野球部への支援

芳名のみ公表	水嶋 陽子*
--------	--------

受配者指定寄付金

芳名のみ公表	関彰商事(株)*
	(株)マイナビ*

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

寄付募集の詳細については、 ホームページでご覧いただけます。

寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

[お電話で] 029-232-2554

[メールで] kifu@tokiwa.ac.jp

皆さまからのご意見大募集!

①印象に残った記事とその理由など

②今後、広報誌で取り上げてほしい
テーマなど

皆さまからのご意見・ご感想を

メールまたはハガキでお寄せください。

※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する
学校名)も併せてご記載ください。

[メール送信先] kikaku@tokiwa.ac.jp

[ハガキ郵送先] 〒310-8585

茨城県水戸市見和1丁目430-1

学校法人常磐大学 総務課広報係



お寄せいただいた方の中から、
抽選で20名様に
常磐大学オリジナルグッズを
差し上げます。



常磐大学大学院

常磐大学

常磐短期大学



常磐大学高等学校

智学館中等教育学校

常磐大学幼稚園



<http://www.tokiwa.ac.jp/>



常磐大学は平成28年度大学評価の
結果、(公財)大学基準協会による大学基
準に適合していると認定されました。



常磐短期大学は平成26年度(一財)
短期大学基準協会による第三者評
価の結果、適格と認定されました。